

LUCERNO



(Bulteno de la Japana Sekcio de ILEI) n-ro 9 julio 2014

Aliĝu al la 4-a ILEI-Seminario en Orienta Azio (ISOA)!

ISIKAWA Tiekō

Karaj membroj de ILEI-JP,

Kiel vi jam scias, okazos en oktobro la 4-a ISOA en Kameoka, Kioto. Tiun ĉi seminarion kunorganizas ILEI-sekcioj de Ĉinio, Koreio kaj Japanio. La Japana sekcio de ILEI unuafoje gastigos la aranĝon, kaj jam la lastajn kelkajn monatojn la preparkomitato multe laboras por sukcesigi tiun ĉi maloftan gravan aranĝon.



La temo de la 4-a ISOA estas “Kapabligo de instruistoj/gvidantoj por bona gvidado”.

Por bone instrui Esperanton kaj baki novajn esperantistojn gravas, ke instruistoj mem estu kapablaj. Por esti kapablaj, necesas ne nur entuziasmo sed ankaŭ iugrada trejnado kaj scioj pri instruado. Dum la seminario, kelkaj el la tri landoj prezentos sian instrumetodon, instrumaterialojn, teknikojn ktp. kaj komentos kian rezulton ili havis. En la dua parto de la seminario, ni lernos teorion de bona instruado kaj ekzerciĝos en praktika instruado.

Tra la lastaj tri ISOA-j, ni komprenis, ke ekzistas similaj problemoj kiam ni instruas Esperanton en Orienta Azio. Ni celas kunlabori kaj trovi pli efikajn instrumanierojn. Nia membro, profesoro KIMURA Goro Christoph faros specialan prelegon “Kiel Esperanton en Orienta Azio instrui?”.

Jam aliĝis ĉirkaŭ 20 personoj el tiuj tri landoj. Mi esperas, ke ankaŭ vi partoprenu la seminarion kaj utiligu tiun ĉi okazon ne nur por lerni sed ankaŭ por konatiĝi kun gekolegoj el orientaziaj landoj.



Pri la 4-a ISOA vi povas vidi per “la dua bulteno” .

Aperis La Dua Bulteno! 2014-07-16

La 2-a Bulteno

La 4-a ILEI-Seminario en Orienta Azio (ISOA) en Kameoka, Kioto, Japanio

Dato: la 7a – 10a de oktobro, 2014

Loko: Miroku-kaikan, Oomoto-Centro Ten-on-kjo

1 Uĉimaru, Aracukaĉo, Kameoka, Kioto, Japanio

Ĉeftemo: Kapabligo de instruistoj / gvidantoj por bona gvidado

Ĉeforganizanto: Japana sekcio de ILEI

Kunorganizantoj: Ĉina kaj Korea sekcioj de ILEI kaj

Stud-eduka Fakoj de Japana Esperanto-Instituto



Kotizo

(inkluzive de manĝoj
kaj tranoktoj):

*Aliĝo el ekster Japanio:

10,000 JPY

*Aliĝo el Japanio:

13,000 JPY

Bonvolu vidi pli en la HP “ilei.jp”.

Katalin Kovats prelegas pri la oficiala instruado de Esperanto, okaze de la 73a Hispana Kongreso de Esperanto kaj 18a Andaluzia E-Kongreso, ĵus okazintaj en Arundo (Ronda) en majo, 2014. (Vi povas vidi ĝin en la HP “ilei.jp”)

エスペラント教育について カタリン・コヴァチ

» 2014年5月 スペイン大会にて (70分)



Oficiala instruado de Esperanto - Katalin Kovats

北京で教えてみた入門講座 (Enkonduka kurso en Pekino)

臼井裕之

中国の北京でエスペラントを教え始めたのは 2013 年 6 月。 *El Popola Ĉinio* (EPĈ) で働きはじめてから 1 年 3 か月後だった。かつて入門を教えたのは学部生ないし卒業直後の頃、大学のエス研や市民サークルでだったから 20 年ぶり。「自分には初心者の気持ちが分からない」と思って遠ざかっていた。

それが中国へ行って北京で運動が停滞しているのを見て、思わず「おれにやらせろ」と名乗り出てしまった。そこで同年 2 月に一時帰国したとき、あわてて入門書などをかき集めて旅行かばんに入れた。

開講 9 カ月後でも 10 名程度の生徒

会場は一つは EPĈ の会議室。EPĈ は今では多角経営で中国語の月刊ニュース雑誌なども出しているが、もともとエスペラント雑誌専門だったから会社公認の講習会である。もう一つ是北京語言大学で、こちらは場所こそ大学だが正規の科目でもなんでもない。正規にエスペラントの入門を教えている先生に頼んで、教室を使わせてもらっている。

北京では、市民向けの入門講習会が 10 年間 (!) 開催されていなかったこともあり、最初は二箇所合わせて 30 名以上の人が集まった。次第に人数が減っていくのは致し方ないが、今でも両方で 10 名前後の人たちが集まっている。

椅子の周りを駆け回るケツタイなセンセイ

授業はエスペラントと、怪しげな中国語のチャンポンだ。前置詞の *ĉirkaŭ* が出れば、”*mi kuras ĉirkaŭ la seĝo*”と叫んで椅子の周りを走り回ったり、恥も外聞もなく演技できるのは外国人の特権か。

教科書は定めず、そのつどわたしが EPĈ でコピーしている。中国人も豊かになってきたが、外国の教科書は中国語の本の数倍の値段になるからだ。最初のうちは 1980 年代に買った *Saluton!* にお世話になったが、レイキャビックの世界大会で買って来た *Ludu kun ni* に変わっていった。ヨーロッパで大人向けに出た教材は、日本人や中国人には難しすぎるからでもある。

エスペラント文化はこってりと

ただ会話だけの「ちーちーぱっぱ」にはしたくなかった。そこでもう数回目から詩を取り入れた。最初はザメンホフの *Ho, mia kor'*。もっとも中国語で詳しく内容説明など出来ない。画用紙に大きな心臓の絵を数枚描いてきて、これは *mia koro*、あれは *via koro*、そしてそこにあるのは *lia koro* (といってザメンホフの写真の下に貼っておいた心臓を指さす)。”*ne batu maltrankvile*”だったら心臓がバクバクするしぐさをしたり…過剰サービスが売りである。

最近、EPĈ で 20 年近く在籍しているが、わたしの講座ではじめてエスペラントを学びだした中国語の編集者で同僚に「エスペラントの何に今、一番興味がある？」と訊ねてみた。「エスペラントの文化かな」「えっ、最初からそこに関心があったの?」「いいえ、あなたの授業を受けていてそうになった」。ザメンホフばかりでなく、バギーやらオールド、さらには毛自富の詩までやった甲斐があった。

2 年目に向けて膨らむ夢

20 年前は数ヶ月の初級が終わった後、どうしたらいいのか困った記憶があるが、今はかえって教える内容に自由度が出てきて楽しい。この頃では出来る生徒に個別に声を掛けて、作文を書いてもらうこともある。最初に出したお題が *Pri mia hejmloko*。けっこうみんな力作を書いてきてくれてビックリ。

しかし作文を書かせただけでは終わらせない。いつだったか 5 月のエスペラント・セミナーで山川修一さんが、参加者に作文を持ち寄せ、それを使って通訳の訓練していた。それを真似しはじめた。今はベルの高い通訳ができる人材はほとんどいないので、そういう通訳をできる人を育てたいなどと夢想している。

エスペラント講座はただ教えているだけではダメ。どう生徒たちをまとめて運営していくかも求められている。ちょうど語言大学で新しい正規の講座が始まって、200 名近い登録者がいるようだから、出かけて行って自分の講座を宣伝しようかしら。またその学生たちが参加してきたら、いっそのことそそのかして北京独自の青年組織を作らせようか、などと 2 年目の夢は膨らんでいく。

~~~~~

## 「隔日学習会」(掛川方式)の実践報告

掛川市 石川一也

タイトルを「掛川方式」などと大げさなものにしましたが、「掛川でわたしが行っている方法」程度の意味です。

わたしが、エスペラントを教え始めたのは、自分がエスペラントを教わってすぐのことです。というのも、当時、わたしの住む掛川市には、自分以外 3 人しかエスペランティストがいなかったもので、もっと仲間を増やしたい、と考えて、教え始めました。それから 50 数年が過ぎた現在まで、教える相手は、ずっと 1 人、つまりマンツーマンでした。今までに 10 人は確かにエスペランティストになった。

しかし、彼らのほとんどは、大学卒業とか英語が堪能だとかで、所謂、エリートと言える人たちでした。そうでない人たちにも、5~6 人教えたが、全て頓挫してしまいました。

考えてみると、日本人のほとんどは、英語を少なくとも 3 年以上学んでいるにもかかわらず、英語で話せない人が殆どという実態から、英語が殆ど話せない人でもエスペラントなら、話せるようになる、という方法を考え、実践していかないと、日本のエスペランティストは増えていかないのではないだろうか、とここ 10 年ほど想い続けてきました。

そして、ここ 10 年の間に、これならなんとか、それほど英語が得意でない誰でもエスペランが話せるようになる、という方法を考え、実践しています。以下は、その報告です。

### 1. 1 週間に 1 度という学習会はやめて、隔日にする。(そして Skype の利用)

かつてはわたしも「1 週間に 1 度」方式をとっていました。つまり、自分(指導者)と相手の共通な曜日と時間帯を決めて、週に 1 回教える、という、日本中で行われているであろう一般的なやりかたでした。これは、それ以上の回数は、時間がとりにくい、特に、数人を対象としたときには、現実的に、無理だということからでしょう。

しかし、1 週間に 1 度の場合、後に述べる 3 の「毎日エスペラントに触れる」ことを実践していない限り、教わったことは 1 週間のうちに殆ど忘れてしまう、ということを繰り返していくことになり、エスペラントを身につけることは難しい。

これが、他の外国語に堪能な学習者であったりすると、話は別です。日本中で行われている講習会で、優秀な人のみを相手にして教えるとか、脱落する人は、そのまま脱落させる、ということが行われていなければ幸いです。

多くの日本人は、中には外国語に興味を持つとか、外国語で自由に外国人と話ができるようになりたいとかいう人が居るはずです。特別な英語の力はないが、熱意のあるひとたちがエスペラントを話せるようにならせることはできないものだろうか? と考えた一つの方法が、「隔日に指導する」ということです。

一日おきにある会場に出かけるのは大変なため、それでは長続きしません。

そこで、居ながらにしてできる、Skype を利用することにしました。2014 年 6 月現在、二人を対象に指導していますが、月・水・金の夜 8 時から 8 時半までの 30 分を設定しています。

この方法は、パソコンが使って Skype の活用ができる人、という条件が、最低条件として必要です。したがって、この条件で出来る人は限られると考えがちですが、これが、日本中の誰でもこの方法で居ながらにして学習できるという利点の方が勝るのではないかと思います。

という訳で、現在行っている学習会の名称を「隔日学習会」としました。この「隔日」には、「確実」というだじゃれの意味も含まれます。

以下、わたしの方法について具体的に述べてみます。

## 2. エスペラントも最初は難しく感じる、と知ってもらう

1958 年の 3 月にわたしは、静岡市の葵文庫という図書館で毎晩 2 時間つづ 10 日間「初級エスペラント講習会」を受講しました。

最初は、50 人近くいた受講生が、10 回の講習が終わった最終日には、たった 5 人になっていました。45 人の受講生は、毎日少しずつ消えていきました。

現在は、こんなに多くの受講生が集まることはないでしょうから、このような現象は見られないので、貴重な資料と言えますが、なぜ、みなさん、学習を中断したのでしょうか？いろいろな原因・理由があると思いますが、その中に「エスペラントは、易しいとの説明だったので始めたけれども、やはり「英語同様に」難しいからやめた」ということが考えられます。

そこで、わたしは、エスペラントを勧める時も、学習の初めにも、こんな話をして理解してもらいます。

「エスペラントは、英語などに比べるとずっと易しい言葉です。易しくなければ、エスペラントは、多くの人々に学んでももらえないので、創始者のザメンホフは、できるだけ易しいものにする努力を重ねました。ですから、当然、英語などに比べるとずっと易しいのです。しかし、何かを習い始めた時のことを思い出してください。例えば、自転車乗りです。最初からずっと自転車に乗って走ることができたでしょうか？何回か倒れたりしながらあるとき、ずっと乗れるようになりましなね。何事でも「習い始めは同じように難しいものだ」ということを忘れないでください。例えば、これがエスペラントでなくて、ロシア語でもフランス語でも、当然、同じように難しいのですが、違う点は、英語やロシア語、フランス語の場合、「いつまでも難しい」のですが、エスペラントの場合、「あるところまでは、新しいことなので難しく感じるけれども、そこを通過すると、急に易くなる」ということです。」

こんな話をしてしばらくは、がんばってもらいます。

## 3. 「毎日 10 分でも 5 分でもいいので、エスペラントに接してください」と話す

学習方法を教えるときに、わたしがよく例に使うのは、「赤ちゃんがどのようにして母語（日本語）を話せるようになるかを考えてみましょう」ということです。特に母親を中心に周りの人間が赤ちゃんに盛んに話しかけます。赤ちゃんはこれを刻々聞いています。（1 週間に 1 度なんてことはありません。）同じことを何度も繰り返し話しかけます。

この「何度も繰り返し」ということも大事なので、これも「掛川方式」の一つです。

いま学習しているエスペラントにできるだけ毎日、せめて 10 分間は触れます。触れるというのは、「音読する」「聴く」「書く」「読む」「話す」などのことをする、という意味です。

これらの中の「音読をする」というのは最も簡単に出来るもっともよい方法です。最近学んだ文や文章を「声に出して読む」のです。5 分でも相当の分量を読むことができます。あるまとまった文章 (Teksto) を繰り返し読んでみると、そのうちには「暗唱」できるようになります。

ですから、最初から「この文章を暗唱できるまで音読する」ということを目標にするとうよいのです。読んだら、その回数をどこか、カレンダーなどに記入しておくとし励みになります。以上のようなことを話し、時々、実行しているかを確認します。また、この考え方から事項に述べる「隔日学習会」という方法が生まれました。

#### 4. 教える対象は、3人が限度

昔はいざ知らず、最近では、講習会を計画しても何人も集まることはないと思われます。だから、こんなことは考える必要はないかもしれませんが、エスペラントのような「言語」を教える場合、できるだけ少人数がよいでしょう。1～2人が相手だと、それぞれの人の書き間違い、発音の間違いなどをすぐ把握でき、その場で指導してあげることができます。多人数だとこうはいきません。

わたしは、理想としては「2人」と考えます。では、どうして「1人」ではだめかという（もちろん、ダメと言いつ切るつもりはないのですが）、二人だと、お互い刺激を受け合うことができるし、他にわたしは、次のような方法をとりたいからです。

それは、仮に一人がある日、欠席したとします。その場合、次の回に出席した人が欠席した人に「教える」という方法をとることが、二人だとできます。これを経験すると、一人が欠席すると他の一人は、「教えなければならぬ」ので、実にしっかりと学習することになります。さらに、「教える」という経験をすることによって、自分が「学習しながら『教える』ことも考える」ことにもなります。「教えること」は「学ぶこと」です。また、複数なら会話の練習もできる。講師との会話ではない会話を普段から経験することができます。

わたしは、40年近く小学校の教師を務めてきましたが、教師がしゃべって子どもは聞く、という図式の授業でなくて、できるだけ子どもに多く話をさせ、活動させる授業を理想としてきました。

今行っている「隔日学習」でも、できるだけ、学習者が発言し、活動するようにすることを心がけています。学習者がお互い教えあうというときをつくる努力をしています。

#### 5. 「分かった・知った」ら、「練習・訓練・応用」すること

講師が一方向的にしゃべり、説明して分からせて終わり、という講習会では、「話せる人」を育てることはできません。「分かった」という段階で終わらず、必ず、多くの「練習・訓練」が必要です。水泳を例にとると、プールの外で泳ぎ方を説明しても、実際に泳がせないことには泳げるようには絶対ならない、ということは誰でも分かっていることですが、こと、エスペラントの指導となると、テキストを読んで、単語の意味を説明して、文法を説明して、それで終わり、という指導がみられます。それで、誰にもエスペラントが身につくのでしょうか。

学習とは、「分かる」だけでなく、「繰り返し練習する」ことまでを、言います。

例えば、現在行っている「隔日学習会」の Teksto の例です。こうした Teksto を事前にメールで送っています。学習者は、これを予習して学習に臨みます。

以下は、最近行った学習会のテキストです。

---

73. Nenion diru, karulo, ni eksidu en la auxton kaj ekveturu al Italio.

74. わたしは、何にも持っていない。

75. 「座っていなさい。」「座りなさい。」

76. その部屋に座っていてください。

77. ぼくの車で東京へ行こう。

78. あいつは、あいつの車で行くだろう。

79. エスペラントの辞典を持って、車に乗ろう。

---

73の文は、エスペラントの Teksto で、これを訳してもらいます。「訳してあげる」ではなく、「訳させる」ので、予習がひつようになります。

この文が本来のテキストの文です。この読み取りだけでは、終わりません。

74以下の「日本語からエスペラントへ」が重要な「練習段階」です。

74は、Nenion の練習です。

75は、eksidu の練習と、sidis, eksidis, ~u の練習です。

76は、「座っている」と「～してください」の練習です。

77は、「ni ~u」の練習です。

78は、日本語では、いつも「彼」でなく「あいつ」とも言うことの練習と「～os」の練習です。

79は、「～を持って」は kun の練習と「ni ~u」の練習です。

---

この日本文からエスペラントに直す学習は、初心者には、難しいのではないかと始める前までは思っていたのですが、これが、けっこう「楽しい」と学習者は言います。自らが和エス辞典を使えば、日本語をエスペラントにすることができる、ということから、「自信」が生まれ、そういうことから「楽しい」という感想が生まれたと想像できます。

## 6. 「自分にもできる」という「自信」をつけさせる

上にも述べましたが、学習者に「自分にもできる」という「自信」を持たせることが、とても大事だと考えます。例えば、ほんの一言でも、「自分にもエスペラントで話せた」ということが「自信」になります。ですから、早くから、一言でもエスペラントで言えるようにすることを頭において指導します。

エスペラントを言語として指導しながら、同時に「自分だけで学習する方法」をも教えていくことも重要なことです。上に述べた「辞典で調べる」ということも学習中も盛んに行います。「独り立ちできるエスペランティストを育てる」ということも常に頭において指導したい事柄です。それには、その「方法」と「自信」を与えることです。

「自信」を持たせる方法の一つに、「褒める」「認める」ということがあります。

子どもも「褒める」ことで伸びることが多いです。「褒める」ためには、どこかに褒める点がないだろうか、と褒めるチャンスを常に探しているという指導者の姿勢が必要です。

大人でも、どんな力のある人でも、褒められると嬉しいものです。そして、褒め方の工夫も必要です。

Kurso de Esperanto では、正解だと、エスペラントで Trafe とか Gxuste とか Bonege とか言って褒めますが、これらのエスペラントも使えます。

わたしがよく使う褒め言葉は、「満点です」「100点です」「よくわかりましたね」「とても進歩しましたね」「正確です」「とてもよい訳です」などです。

## 7. エスペラントの歴史・運動などについても折に触れて話す。

言語としてのエスペラントを熱心に教えるあまり、うっかり忘れがちなのが、エスペラントの歴史・運動その他の情報・常識について話すとかその資料を渡す、ということです。

エスペラントが如何にして誕生したのか、ザメンホフ（最初は1人だった）がどれほどの困難にぶつかったか、また、現在のエスペラント運動・大会・出版・放送などについて、折に触れ、伝えることがとても重要なことと考えます。

こうした関係の知識は、エスペラントの学習の支えの一つになるからです。

今学習している言語、エスペラントは、世界中の人が同じように努力して学習しているということやエスペラントが現実的に世界中の人たちによって使用されている、ということを実感してもらうことも必要です。

Skype を使った学習をしているので、例えば、外国人を呼び出して、易しい単語ではなしてもらおうとか会話をしてもらうということもしたいものです。

現在、ロシアのアレクセイさんと韓国のイ・ヒョンヒさんをお願いして、もう少し彼女たちのエスペラントが進歩したら、Skype に出て頂き、学習に協力してもらおうよう、お願いしてあるところです。

☆現在「隔日学習会」で学習している、S さんも Y さんもとても熱心に勉強しています。それが証拠に、殆ど「予習」をしています。そして、分からない点は「質問」します。

以上に述べた方法以外に、彼女たちに対して行っている方法があります。それは、「Jes, Ne で答えられる質問をして答えてもらう」という「会話練習」です。

Ĉu vi sidas? Ĉu vi ŝatas trinki kafon? というような簡単な質問をして、Jes, mi sidas. Ne, mi ne ŝatas trinki kafon. などと答えてもらいます。

こういう方法は、(あまりに、簡単な問答なので、「飽き」が来るのではないか、「退屈」ではないか、という疑問を持たれるかもしれません。(特にベテランに多い。)

しかし、質問を100%理解しないと、返事はできないので、「しっかり聴く」という姿勢が生まれ、同時にエスペラントの「音(おん)」に耳が慣れる、これだけでも、価値があります。

お二人は、次第に、すぐ返事ができるようになってきました。

「独学」でもエスペラントの勉強ができる人も確かにいます。しかし、普通は、このようにして誰かに教わるとか、仲間と学習しないと、刺激もないために、よほどの頑張りやでない限り、頓挫してしまいはしないかと、思います。

## Resumo:

Por instrui Esperanton al gxeneralaj japanoj gvidanto devas atenti pri jenaj punktoj: 1. Diru al la lernantoj, ke komence ankaux Esperanto estas malfacila kiel en la okazo eklerni iun lingvon, sed baldaux faciligxos.

2. Cxiutage lernu Esperanton almenaux 10 minutojn. Mi instruas tri fojojn semajne po duon horo.

3. Ne nur komprenigi signifon de vortoj, gramatikon kaj uzumanieron de vortoj, sed ankau ekzerci lernantojn estas tre grave.

4. Kiel eble multe alauxdu viajn lernantojn..

---

{編集後記}

ISOA の前になんとか第9号を発行することができました。ISOA の成功を祈ります。

ところで、春には各地で「エスペラント入門講座」が行われたと思います。そういうお知らせは見ることはできますが、それがどのように実施され、その後どうなっているかはよくわかりません。そういうことの交流も必要だと思います。今度の「LUCERNO」ではその特集を組んでみようかと思っています。「エスペラント入門講座」実施報告の原稿を募集します。(松木)

☆ LUCERNO に原稿をお寄せ下さい。

☆ 会員相互の意見交換や情報交換に ILEI-JP のメーリングリストをご活用下さい。

|               |       |                                                                          |
|---------------|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| ILEI-JP 代表    | 石川智恵子 | <a href="mailto:isksanjo@ff.e-mansion.com">isksanjo@ff.e-mansion.com</a> |
| ILEI-JP 機関紙編集 | 松木義信  | <a href="mailto:myoshi@abelia.ocn.ne.jp">myoshi@abelia.ocn.ne.jp</a>     |